

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	琵琶湖流域における河川環境の保全・再生対策の推進（重点）		
計画の期間	平成27年度～令和1年度(5年間)	交付対象	滋賀県
計画の目標	琵琶湖総合保全整備計画（第2期）に基づき、水質保全および自然環境保全対策を実施することにより、琵琶湖流域の生態系の保全・再生を目指す。 湖底の底泥浚渫や覆砂等の底質改善対策および植生浄化や内湖拡幅等の流入河川対策による水質保全対策により、琵琶湖への流入負荷を低減する。		

計画の成果目標（定量的指標）	琵琶湖の水質について、水質保全対策を実施することにより、COD、全窒素、全リンについて、水質目標値まで改善する。 湖底の底泥浚渫や覆砂等の底質改善対策および植生浄化や内湖拡幅等の流入河川対策による水質保全対策により、琵琶湖への流入負荷を全窒素、全リンでそれぞれ新たに0.75kg/日、0.26kg/日低減させる。		
----------------	---	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (R1末)							
琵琶湖の水質 T-N（北湖）	250 μg/l	-	240 μg/l							
琵琶湖の水質 T-N（南湖）	240 μg/l	-	240 μg/l							
琵琶湖の水質 T-P（北湖）	8 μg/l	-	8 μg/l							
琵琶湖の水質 T-P（南湖）	12 μg/l	-	12 μg/l							
琵琶湖への流入負荷削減量 T-N	0g/日	450g/日	750g/日							
琵琶湖への流入負荷削減量 T-P	0g/日	150g/日	260g/日							
全体事業費	合計 (A+B+C)	945百万円	A	945百万円	B	-	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期 令和1年12月19日
滋賀県公共事業評価監視委員会にて、事後評価を実施	公表の方法 滋賀県公共事業評価監視委員会にて一般公開

交付対象事業の選択状況																							
交付対象事業																							
A14 都市水環境整備事業																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別実施計画 策定状況	備考					
										H27	H28	H29	H30	R1									
A14-001	都市水	一般	滋賀県	直接	滋賀県	-	統合河川環境整備事業	赤野井湾他2河川 河川浄化、覆土工	草津市、守山市						565	-	-						
小計														565	-	-							
A8 その他総合的な治水事業																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別実施計画 策定状況	備考					
										H27	H28	H29	H30	R1									
A08-002	総合治水	一般	滋賀県	直接	滋賀県	環境	東近江・湖東・湖北・湖西圏域総合流域防災事業	西の湖 河川浄化	近江八幡市						380	-	-						
小計														380	-	-							
合計														945	-	-							
C 効果促進事業																							
C1 河川効果促進事業																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考							
										H27	H28	H29	H30	R1									
小計														...									
番号 一体的に実施することにより期待される効果																							

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・平湖・柳平湖の堰土での護岸工による底質改善事業の進捗に伴い、底泥からの窒素やリンの溶出を抑制することにより琵琶湖への流入負荷削減に寄与できた。 ・木浜内湖の覆土での護岸工と植生工による底質改善事業の進捗に伴い、底泥からの窒素やリンの溶出を抑制することにより琵琶湖への流入負荷削減に寄与できた。		
II 定量的指標の達成状況	指標①（琵琶湖の水質T-N（北湖））	最終目標値 240 μg/l	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値 200 μg/l	
II 定量的指標の達成状況	指標②（琵琶湖の水質T-N（南湖））	最終目標値 240 μg/l	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値 320 μg/l	湖沼の浄化事業、下水道の整備や工場排水規制等、水質の保全に資する事業を実施し、水質は改善傾向を示していますが、近年は琵琶湖の水温が高かったり、夏場のプランクトンの増加、また、台風による濁りの増加により水質にも影響を及ぼしたと考える。
II 定量的指標の達成状況	指標③（琵琶湖の水質T-P（北湖））	最終目標値 8 μg/l	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値 8 μg/l	
II 定量的指標の達成状況	指標④（琵琶湖の水質T-P（南湖））	最終目標値 12 μg/l	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値 19 μg/l	湖沼の浄化事業、下水道の整備や工場排水規制等、水質の保全に資する事業を実施し、水質は改善傾向を示していますが、近年は琵琶湖の水温が高かったり、夏場のプランクトンの増加、また、台風による濁りの増加により水質にも影響を及ぼしたと考える。
II 定量的指標の達成状況	指標⑤（琵琶湖への流入負荷削減量T-N）	最終目標値 750g/日	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値 950g/日	
II 定量的指標の達成状況	指標⑥（琵琶湖への流入負荷削減量T-P）	最終目標値 260g/日	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値 230g/日	施工前の事前調査の結果、底泥から溶け出すリンの量が当初の見込みよりも少なかったため。

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）

IV 特記事項（今後の方針の案）  
琵琶湖総合保全整備計画（第2期）目標である「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の再生」を達成するため、河川環境整備事業の推進が必要である。  
琵琶湖や内湖を含む河川の環境保全対策については、琵琶湖への汚濁負荷を減らし、水質の改善に寄与するため、引き続き底質改善対策および流入河川対策の推進に取り組む。